

学びを広げる ICT の活用に向けて

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

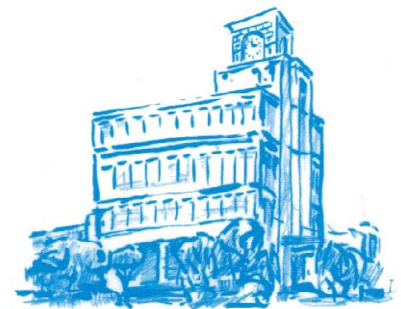
令和3年度は、「教育の ICT 元年」と言われるように、タブレット端末の本格的な活用が始まりました。

このことを象徴するように、総合教育センターが実施した教職員対象の「アウトリーチ型研修」も、昨年度の72回から90回と大きく増えました。

大きく変わったのは回数だけではありません。研修内容も大きく変化しました。昨年度は、端末の機能や操作スキルに関することが中心でしたが、今年度は、授業や家庭学習等における ICT の利点を生かした活用方法、即ち、ICTを活用することで、これまで不可能であったことが可能になるような活用の仕方についての研修が増えました。

令和3年1月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育の構築を目指して』には「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進が、これからの時代における必要な資質・能力を育む「カギ」とされています。これらの「学び」は、何も新しい学びではありません。表現は違いますがこれまでも取り組まれてきたことであり、大きく変わったのは、これらの学びに ICT が加わったことです。目的とする「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、子どもたちに必要な資質・能力の育成を図るために、ICTを効果的に活用していく指導技術が求められているのです。

私たちは2年間にわたって、臨時休校や学級閉鎖などを余儀なくされるなど、新型コロナの影響を大きく受けてきましたが、令和4年度もこのような状況が続くことを想定しておかなければなりません。このような時に、学びを止めることなく、質の高い学びを継続するためには、授業や学校行事、学級閉鎖時における ICT の更なる活用について研究を進めていかなければなりません。総合教育センターにおいては、令和3年度の取り組みを総括する中で、学校のニーズに対応できるよう更なる ICT の有効活用について研究を進めてまいります。



ICTの有効活用

小中学校の児童生徒に一人一台のタブレットが整備され本格的な運用が始まったICT元年。授業での活用だけでなく、行事や様々な場面の取り組みが行われた1年間でした。今年度を振り返り、令和4年度は「**目的に向かってどのようにICTを活用するか**」という研究が求められています。

令和3年度の取り組みと活用状況

①授業における活用

授業形態	活用状況	効果
一斉学習	・授業支援システムを活用した課題の一斉配布や回収。	・配布や回収にかかる時間を軽減し、授業を効率化することができた。
個別学習	・インターネットを使った調べ学習や学習履歴の活用。	・調べた情報や学習の履歴の振り返りが可能となった。
協働学習	・オンライン上での意見交換。 ・作品や課題の共同制作、評価。	・互いの考えを交流し、他者の良さを発見、自分と考えと比較することができた。

②行事における活用

行事	活用状況	効果
全校集会	・Web会議システムを使って各教室で視聴することで、移動時間を短縮。	・プレゼンテーション機能や画像、動画を使うことで、内容を視覚的に伝える。
校外学習	・Web会議システムを使い、現地の人の話を視聴。	・オンライン開催にすることで行き先の選択肢が広がる。
研修・研究	・校内研修や外部講師を招いての研修をオンラインで開催。	・タブレット端末を複数台使用し、様々な視点から研究授業を参観できる。

③学級閉鎖等における活用

場所	活用状況	効果
学校	・連絡や課題の配布。 ・朝の会や終わりの会、健康観察を実施。	・家庭での学習を支援。 ・児童生徒の顔を見ての会話やチャット機能を用いた個別の対応。
家庭	・家庭から課題を提出。 ・オンライン上で朝の会や終わりの会に参加。	・規則正しい生活習慣を維持。 ・授業や友達の様子を知ることで自宅待機による不安を解消。

令和4年度に向けて

資質能力の育成を目的とした活用

授業において、ただICT機器を使うだけでなく、活用を通して**児童生徒にどのような資質能力を育むのか**を目的とした活用が求められます。

知識・技能

思考力・判断力・表現力

学びに向かう力・人間性等

①個別最適な学び

指導の個別化

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得

一定の目標をすべての児童生徒が達成することを目指し、**個々の児童生徒に応じて異なる方法**等で学習を進める

説明文を読んでもイメージができないな

ICTを活用することで児童生徒の学習履歴から**一人ひとりの学びの状況を見極めて、その児童生徒の特性にあった指導や支援**を行う

文章でわかりづらい人は、この動画で復習してみよう

日本の歴史ってなんだかカッコいい！もっと知りたいな

児童生徒の**興味・関心**に応じて、ICTを活用しながら自ら課題を設定し、情報収集、整理・分析、まとめ・表現など、**学び方を選んでデザイン**する

動画や画像を使って、自分の方法でまとめてみよう

学習の個性化

学びの質を高め、深い学びにつながる

個々の児童生徒の**興味・関心**に応じた**異なる目標**に向けて学習を深め、広げる

②協働的な学び

一人一人のよい点や可能性を生かすことで、**異なる考え方が組み合わせ**さり、よりよい学びを生み出す

児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら、共同で作成・編集などを行い、**多様な意見を共有しつつ合意形成**を図る

・ICTを活用し**空間的、時間的制約を緩和**することで遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校、地域や海外との交流が可能。

・話し合いだけでなく、互いの作品鑑賞やチャット機能、図や文章での説明など、**多様な形で児童生徒同士の意見交流**が可能。

児童生徒の活用状況 (令和3年度全国学力・学習状況調査より)

「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。」の質問に「**ほぼ毎日・週1回以上**」と答えた児童生徒の割合

	小学校	中学校
全国	39.0%	34.8%
伊丹市	43.4% (約1.1倍)	63.2% (約1.8倍)

授業における活用状況

(令和3年度ICT活用状況調査より)
小中学校における1ヶ月の活用時間(1クラスあたり)

令和2年度	50.4時間
令和3年度	57.1時間 (約1.1倍)

「活用することが目的」から
「目的に向かってどのようにICTを活用するか」へ

総合教育センター事業報告(一部抜粋)

研修

令和3年度の事業実施方針

- (1) 「学力向上」に向けた学習指導に資する研修の充実
- (2) 教職員のライフステージに応じた研修の充実
- (3) 今日の課題の解決及び教職員のニーズに応じた研修の充実
- (4) 研修機会の充実
- (5) 学校へのアウトリーチ型支援の強化

成果

・コロナ禍においても、**Web会議システムの活用**により**学びを継続**するための研修の機会を確保することができた。

課題

・教職員の世代交代の進行に伴う、**教育に関わる様々な経験や知見の継承**が課題となっている。

来年度に向けて

- ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりや評価の在り方など、実践につながる講座を設定することで授業力向上を図る。
- ・国の動向を注視し、**教育研修のあり方の研究**を進める。

授業力向上(カリキュラム)支援センター

令和3年度の事業実施方針

- (1) コンサルティング機能を活用した教職員への支援及び相談の充実を図る。
- (2) 指導主事やコンサルタントによる「アウトリーチ型支援」の充実を図る。
- (3) コンテンツの充実を行う。

成果

・コロナ禍においても、若手教員に対し**アウトリーチ型個人支援・相談**を行うことで、教員の指導力及び実践力の向上を図ることができた。

課題

・コロナ感染症対策によるコンサルタント機能の低下からの回復が課題となっている。

来年度に向けて

- ・コロナ禍の状況が続くと想定し、**オンライン等を活用して、若手教員の支援の充実**を図っていく。

教育相談

令和3年度の事業実施方針

- (1) 相談員の資質向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた適切な相談を実施する。
- (3) 関係機関との連携を図り、効果的な支援体制の構築を図る。

成果

・複雑化する相談内容に対応するため、**オンラインカウンセリングや情報モラルに関する研修を実施した。**

課題

・不登校や発達上の課題、虐待及び二次障害等を主訴としたものや、命にかかわる相談事案が増えている。**関係機関との連携による、適切な相談の実施や効果的な支援体制の構築が課題となっている。**

来年度に向けて

- ・相談者支援のための体制の構築を図る。
- ・「医療相談・医療発達相談」を「**医療心理相談・医療発達相談**」に名称変更し、教育相談についての周知を行う。

不登校児童生徒の支援事業

令和3年度の事業実施方針

- (1) 学校等との連携の下、教育支援センター「やまびこ」を運営する。
- (2) 教育支援センター「やまびこ」運営委員会の開催
- (3) メンタルフレンドによる家庭訪問
- (4) 「子どもの思春期を考える親のつどい」の開催

成果

・指導員による学校訪問等、継続した学校との連携により、より深く児童生徒の状況を把握し、支援に活かした。

課題

・増加する小学校児童の不登校も視野に入れ、**受け入れ体制の見直しをする必要がある。**

来年度に向けて

- ・**カリキュラムを見直し、小学生・中学生を問わず多様な子どもたちに対応した支援の方法を研究する。**
- ・適宜、指導員による学校訪問を行い効果的な支援について協議する。

教育の情報化

令和3年度の事業実施方針

- (1) 1人1台端末等、授業の内容を効率化させ、思考力・判断力・表現力を養う授業を実現できるように支援する。また教科指導におけるICT活用を推進し、授業改善を図る。
- (2) 発達の段階に応じた体系的な情報モラル教育を推進する。
- (3) 伊丹市立学校園情報セキュリティポリシーに基づき、学校園の情報セキュリティを向上させる。
- (4) 情報機器やソフトウェア等、ICTを授業や校務に円滑に活用できるよう、適切な整備・運用を行う。

成果

・アウトリーチ型研修、情報教育研修、各校へのICT支援員の派遣等により、ICTの活用方法や事例の紹介を行い、教員のICT活用能力向上に資することができた。

課題

・各校のICTの効果的な活用に係る授業研究の支援や、活用の場面、方法等について情報共有する機会を設けることにより、ICTを活用した授業改善を図っていく必要がある。

来年度に向けて

- ・タブレット端末をはじめとしたICT機器や授業支援システムの活用法、ICTの効果的な授業への取り入れ方等、教員のICT活用指導力の向上を図るため、**集合型及びアウトリーチ型研修を実施する。**

研究

令和3年度の事業実施方針

- (1) 全国学力・学習状況調査等の分析結果に基づいた授業改善を図るための校内研究支援
- (2) アウトリーチによる校内研究の支援の充実
- (3) コロナ禍における校内研究の実施に向けた研究及び支援
- (4) コロナ禍に対応した研究推進マニュアルの改訂

成果

・各学校を夏休みまでに訪問し、校内研究の研究内容の詳細や進捗状況を把握した。その中で必要に応じて複数回の訪問及び助言を行うことで格好の課題に応じた適切な支援ができた。

課題

・校内研究支援について、**発表校や準備校に段階的に支援できるよう計画をたてる必要がある。**

来年度に向けて

- ・校内研究の活性化に向けた調査研究の実施。

